

街を行く

第99回 マリナ・デル・レイ Marina del Rey

リゾート地で、テクノロジーに乾杯

ロサンゼルス西側にある高級リゾート地、マリナ・デル・レイを訪れました。スペイン語で「王様の海」を意味するその名の通り、ここは停泊数8,000艇を誇る世界最大の人工ヨットハーバー。温暖な気候と美しい景観が多くの人を魅了し、大勢のセレブやハリウッドスターがバケーションを過ごしています。圧巻なのは、オレンジ色と鮮やかなブルー、ダークブルーが空一面に織り成される幻想的な夕景色。地元で「マジックアワー」と呼ばれており小生も心ゆくまで満喫した次第。この体験だけでもマリナ・デル・レイに来た意味があるというものです。

もちろん、美しい景色を楽しみにここへ来たわけではなく、主たる目的はIT、すなわち「不動産テック」のアントレプレナー（起業家）達との会合です。シリコンバレー（サンフランシスコ郊外）から始まったIT産業は現在、あらゆる産業革新の基礎となり、ITから程遠いとされた不動産業にもしっかり定着しています。小生は数年前から「これからの不動産ビジネスはこの流れだ」と思っており、NYで不動産テックを駆使する仲介会社に出会い出資もしていたのですが、その話をマーケットが聞きつけたのか、全米各地から色んな分野のアントレプレナーから話が舞い込み、最近足繁く米国を訪れては彼等とビジネスの話をしているというわけです。未来のビジネス市場を先導するアントレプレナーが（ビジネス中心街ではなく）リゾート地にいるというのは、まさに米国らしいところ。市場を席捲したいと意気込む彼等は遅い限りです。



マリナ・デル・レイの幻想的な「マジックアワー」

何の屈託なく堂々と自らの夢を語る姿にも凄まじいパワーを感じます。語られる夢も荒唐無稽ではなく、テクノロジーとマーケットを結びつける論理構築がなされ、説得力があることから、実現可能性を感じさせてくれます。どのアントレプレナーに会っても言われるのは、小生が「初めて会った日本人」ということ。少し寂しいですね！

一連のミーティングの後は、あるアントレプレナーが地元の寿司屋へ連れていってくれました。当初はシーフードレストランの予定だったのが、自分のお気に入りの寿司屋を日本人はどの様に思うかを知りたかったのでしょうか。実際は、ネタよし味よしのお店でお墨付きをあげてきました。本当に美味しかったですよ。日本から遠く離れた街でこんなに美味しいお寿司が食べられるとは思いませんでした。やはり街を訪れる楽

しみは食事ですよ。

でもこんな環境で最新の仕事ができるなんて最高です。これこそが米国の強さなのです。自由なファッションで自由な発想の彼らに対抗するために、小生もスーツを脱ぎ捨てています（かなり無理はしていますよ）。還暦を過ぎての青春ですから、時代に合わせないとね！

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。